平成28年度《 第６号 》

貞香会　会報

2016 TEIKOKAI Annual Report

更なる一歩を

貞香会会長　赤平泰処

貞香会総合書展も皆様の御協力により無事盛況裏に終えることが出来、有難うございました。

総会では役員の改選もあり、会員の名称も変更され新しい出発が期待される。社会の流れの中で変わっていくものと、変わらないで続けられるものがあり、続けられるものは伝統を生み、また、文化を育んでいく。貞香会も書道文化の一翼を担っており、会として保ち続け伝承していかなければならないものがある。

会則の目的には、書道一般に関する研究、そのための研究会、展覧会、講演会の遂行が記されている。この自覚を新役員・会員が持つことが会としての魅力となり、未来が生まれると思う。

書に対する研究不足が作品の低迷を生み、貞香の書の新たな出発の障害になっている。他の公募展等での成績は恥ずかしいのが現状で、井の中の蛙状態である。視野の広いかつての書風はどこにいったのか、素堂先生の書の何たるかを忘れたような自己満足の書では通用しない。是非とも錬成会に参加して自らの書と向き合い、共に貞香の書を築き上げていく一歩を模索してみませんか。

第五十二回、創立九十四年、貞香会は他の書道団体と比較しても何ら見劣りしない歴史と伝統がある。この実績を活かし一人一人が新たな気持ちで作品に向い、輝くような執念の書を制作してみて欲しい。

六月の貞香書展が本会発展の契機となることを念じております。

急がば回れ

理事長　中村青藍

新年を迎えますと、上野・日本橋・銀座では新春を彩る書展が華やぎます。

本年は「ＴＯＫＹＯ書二〇一七」展に長尾泰邨先生が大作を出品され、「現代の書　新春展」と「現代女流書一〇〇人展」の両展に鈴木蓮徑先生が出品されました。本会の代表として輝かしい活躍に賛辞を送ります。

貞香会の展覧会事業には「貞香会総合書展」と「貞香書展」があり、また「毎日書道展」と「東方書展」にも全力で参画しています。

しかし近年の毎日書道展においては、年々入選率が平均値に満たない状況が続いています。会員皆様の奮起が望まれます。

その準備に、今年も二月と四月の二回練成会を予定しております（詳細は案内を参照ください）。この練成会に是非共ご参加いただき、良い成績が得られますことを、ご期待申し上げます。

貞香会も発足から今年で九十四年目を迎えました。更に三年先の二〇二〇年は東京五輪と、第五十五回貞香書展が開催されます。オリンピックイヤーに合った企画が望まれます。

しかし現状はかつてのような書道ブームは過ぎ去り、今の少子高齢化のもとでは、若手の参加率が低迷し、高齢化については、なお深刻です。出品点数の減少傾向は、必然的な傾向かと思われますが、工夫をもって対応するしかありません。

書は楽しむ心があれば鬼に金棒です。急がずゆっくり、ゆっくり歩みましょう。作品一辺倒だと充電不足になります。基本を大切に、古典を習うと道が開かれてきます。

今年の定例総会は、役員改選がありました。新体制のもとで、これからの事業を邁進してまいりますので、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成二十八年度　貞香会総会報告

平成二十八度定期総会は、一月二十一日（木）午後三時から、東京都美術館講堂において開催されました。総会には顧問の中村素岳先生、参与の中谷春径先生のご臨席のもと、二十一名の会員の出席をもって開催となりました。

総会は、鈴木蓮徑理事の司会で進められ、開会のことばを中村青藍理事長が行い、続いて挨拶に立った赤平泰処会長は、貞香書展五十回記念展の盛会後、新たな団結力が生まれ、今年の総合書展は八十点余りの出品点数が増えた。また、新たな気持ちで五十一回展の貞香書展に向けて、多くの会員の皆様のご協力をお願いしたい。明日の貞香会へ向かって、本日の総会の議題についてご審議をお願いしたいとの、旨を述べられました。

次に委任状の確認を司会より報告があり、会員数二二九名の内、総会出席者二十一名、委任状提出者一三八名　合計一六五名になり、総会が成立いたしますと報告がありました。議長には今井泰篁理事が選任され議事に入りました。

先ず、第一号議案の平成二十七年度事業報告が根本泰邱事務局長より、第二号議案の平成二十七年度決算報告が後上菁華理事よりあり、その後、会計監査報告が真下良祐監事よりあり、一括承認されました。

次に、第三号議案の平成二十八年度事業計画案が根本事務局長より、第四号議案の平成二十八年度予算案が後上理事より提案され一括承認されました。

その他の議事については、次の5年間は、国立新美術館および東京都美術館とも、同じ会期で同じ会場で開催ができることの報告がありました。最後にその他の議事特になく、今井議長が拍手の中、議事が終了したことを宣しました。

最後に、中村青藍理事長の閉会のことばで、来年は総会を土日に開催して多くの会員に出席してもらいたいとの想いを述べ、総会が無事終了いたしました。

これにつづく懇親会は、百名程の参加で盛況でありました。その席上で、総合書展で受賞された方々がステージ上で喜びのコメントを述べ、また第六十八回展の審査員は鈴木蓮徑理事が務めることが発表され、挨拶がありました。

（根本泰邱記）

出席者

中村素岳	中谷春径				
赤平泰処	中村青藍	奥山泰嶺	今井泰篁	加茂泰玄	
後上菁華	鈴木蓮徑	髙橋珠翠	根本泰邱	平林大舒	
二木秀蔭	山根紅樹	亀和田郁芳	真下良祐	飯野彩心	
下川翠雨	末永江春	中田翠苑	細田香瑤		

【平成二十七・二十八年度役員名】

［顧　問］	中村素岳	長谷川耕心	荒木大樹		
［参　与］	中谷春径	書間欽堂	室生大韻	八木舜堂	
	若井香樹	大野宜白	松本宜響		
［名誉同人］	佐藤中処	後藤鶴台			
［会　長］	赤平泰処				
［理 事 長］	中村青藍				
［副理事長］	奥山泰嶺				
［理事・事務局長］	根本泰邱				
［理　事］	今井泰篁	柏木南城	金子正信	加茂泰玄	
	後上菁華	髙橋珠翠	平林大舒	二木秀蔭	
	光谷素仙	山根紅樹	鈴木蓮徑		
［監　事］	亀和田郁芳	真下良祐			

「TOKYO書2016 ～公募団体の今～」展

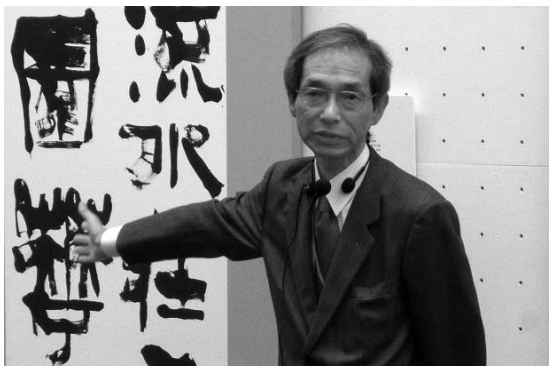
杉戸泰岳先生 代表出品

1月4日～16日
東京都美術館

東京都美術館では、毎日書道会、読売書法会、産経国際書会に所属し関東に拠点を置く公募団体から18団体を選定し、その団体から代表として選ばれた次代を担う気鋭作家・38名による大作展を主催。

２０１６年は4回目の開催で、貞香会より杉戸泰岳先生が出品。幅10ｍの壁面に大作を発表した。

この展覧会では、会期中3日間にわたり、各会派の代表作家によるアーティスト・トークが行われ、杉戸泰岳先生は1月9日㈰午後に担当・解説された。



自らの作品を前に、撰文した漢詩についての説明や、制作の準備、経緯や技法、書への思いなどをギャラリーの皆さんに伝えた。

特に、作品効果を生み出す墨量、墨の濃さの調整に締切り期日まで悪戦苦闘したことや、大字作品を書く際の独自の方法をわかりやすく説明されていた。また、このような大作を仕上げるには、気力ばかりでなく体力も必要であることも付け加えられていた。

今年も大作展とアーティスト・トークとも、大勢の方々が来場し好評を博した。

'16 貞香会総合書展

1月20日～24日
東京都美術館

今年も貞香会総合書展（第一部貞香会役員展、第二部書範展）が開かれた。昨年50回記念貞香書展が盛大に開かれたが、その反動で出品が減るのではという心配がややあったものの、フタを開けると一部、二部合わせて800点を越えて過去最高の出品数となった。これも会員の皆さんのご努力によるたまものと感謝致します。

23日には授賞式がとり行われた。今年は館内の講堂が確保できず、スタジオという小部屋での開催となった。入室人数が限られるため教育部は3班に分かれて、時差式の授賞式となった。教育部では中村青藍理事長挨拶のあと、審査長の中村大如先生が立たれ、講評の中で「受賞作とそうでない作品に大差はありません。違うのは『もうこれでいいや』とするか、『更にもう一枚書いてみよう』と粘り強く取り組んだか、です。」と述べられた。一般部では赤平泰処会長挨拶のあと、審査長の荒木大樹先生が講評に立たれ、「（ただやみくもに）たくさん書くのではなく、書いた作品を壁に貼って、ながめて、どうすれば良くなるのか時間をかけて考えて、じっくりと仕上げることが大切です。」と述べられた。午後5時からは、館内レストラン「アイボリー」で、会員100名近くを集めて祝賀会が開かれ、受賞された方々の喜びの声が聞かれた。

翌24日には昨年各展覧会で活躍された3氏（三浦看山、川島栖園、杉戸泰岳の各先生）による席上揮毫会がメイン会場で行われ、多数のギャラリーでにぎわった。

展覧会場風景

席上揮毫　三浦看山先生

教育部授賞式

席上揮毫　川島栖園先生

一般部授賞式

席上揮毫　杉戸泰岳先生

'16 貞香会総合書展 受賞者

師範部

貞香会会長賞
志太 惠佳
松浦 芳春

書範社賞
邊見 順子
浦野 芽衣
猪野 詩織
髙木 快道

特選
宮川 米子
吉田 華月
渡辺 東
中川 秀雲

専心社賞
長田 晴海
西山 尚子
山本その子
中島 恭子
髙梨 峻玲
向後 佳渓
鈴木 葉香
飛田 静風
森 佳鶴
野村 佳鈴
土屋 秀樹
古舘 文香
入山 美幸
瀬下あかね
宮田 奈摘
濁川 千秋
成田美和子
石毛 香雲
川口 光希

準特選
我満望菜美
篠原 翠峰
山口 珠奈
山中あつみ
藤原 優子
長沼 昭子
長畑 裕子
小湊 陽
今井 文子

一般部

貞香会奨励賞
小野 友美
根布谷順子
森山 真衣
川端 正廣
江藤 啓子
田辺 由美
髙森 柯泉
越川 淑泉
髙梨 峻玲
向後 佳渓
鈴木 葉香
飛田 静風
森 佳鶴
野村 佳鈴
土屋 秀樹
榆木 良裕
大堀 谿光
日吉 涼風
石橋 渓柳
奥村 珠翠
加藤 岑翠
小林 如雪
佐藤 融雪
根本 江南
五喜田幽石
小堀 竹栖

秀作
前原 英子
小林 美子
青木 照美
福田 智之
山本 恵翠
菊地可栄愛
杉浦 寛生
今野 沙穂
坂本 友香
菊山 隆嘉
田村美佐子
和田由香利
篠崎笙太郎
的場喜代子
今泉 仁一
稲見 尹弘
栗山 幸美
田口 和美
池ヶ谷千恵
室井 大輔
久保木江邨
川原 幽香
栗山 紫翠
川口 杏苑

入選
峯岸 悦子
仲野 好重
北井 康子
渡辺 雅子
壺井 尚子
国貞 史絵
酒寄 方治
大島 恋
須藤 剛
高安のり子
宮田 寛子
住谷 郁
鈴木 寿子
米川 知何
新田 昭雄
山口 恵子
荒井 美保
高橋 彩夏
亀田 恵子
山中 里沙
市原 倖心
佐藤 誉仁
山口真由美
田杭 聡子
伊藤 泉映
若梅 照華
椎名 高正
村田 世志
宮村輝陽子
永井 佑季
新井 由香
上野 梨華
笹島妃菜子
大竹 陽子
中島 剛
本多登美雄
坂寄 孝子
杉本 渉
石田 光子
水間 稔
石橋 洋子
曽根 信行
嵜山 順子
髙木美恵子
松下 彩虹
渡辺 嘉宏
牛村ひろみ
有田 泉尚
萩原 則子
那須 江楓
田村 永春
大木 珠芳
塩澤 知輝
佐久間琴弓
浅海 翔太
河合 詩歩
水野 貴帆
広田 瑛葉
加藤 伸幸
池田万有子
稲葉 敏枝
岡田 和子
榆木 寛子
杉山 正巳
水沼 美明
塩野 洋子
佐藤 史帆
井出 映泉
大崎 素風
雑賀 誠芳
松島 翠柳
渡辺 悠斗
山井 御代
漆原 愛美
高橋美智子
久米田 萌
山崎夏樹斗
山内 蓮
髙野 創
伊藤 星
上原さおり
五十嵐千佳
田窪 青蘭
城崎 香華
広重 千織

教育部

貞香会奨励賞
西山 侑希
松本 和愛
谷田貝美桜

書範社賞
小池 祥平
水上 千湖
鈴木 千夏
川井 凰太
萩本 颯天

専心社賞
渡邊 陽奈
滋野 綾菜
稲見 流音
和田 悠里
海老原耶々

特別賞
小池 美緒
堀井 雅
矢野 心湖
中島 采香
中島 澄香
早乙女歌歩
宇敷 優花
柴崎 愛奈
鶴見 侑樹
須藤 美咲
傳田 桃子
川本 桃子
久保田千春
中山日菜子
小川 愛日
石川 琴子
園部 亜弥
菅谷 和奏
飯島 弘章
塩濱 花菜
加茂田真緒
伊藤 愛奈
伏木 瑠奈
奥備 愛
大塚 和都
鈴木 萌生
山崎 百華
山口 李桜
和気 遥花
泉田 絢音
福崎 奈央

特選
村田 佳穂
村田和勇樹
植草かれん
水野 真歩
岸 希美
高際愛里菜
上野 穂香
村上 碧
大塚那津子
田仲里緒菜
山内 開
広重和花子
山本 茉里
古田颯志郎
鈴木 来珠
福崎 優希
大橋 太陽
荒木 姫花
水津 友花
金子美羽音
松本 玲果
荒木優香里
西原 愛華
福田香朱美
山崎望々春
水野 藍花
吉田 理乃
栗栖ほのか
菅谷 和希
鈴木 春菜
平山 佑奈
小林 亮太
盛 知里
首長 春樹
山本 希愛
綿本 音泉
米川あやの
関 留理華
小塙 陸斗
潮田 修佑
黒川 瑞希
山田あゆ美
日下部友菜
村田 美瑛
穂積 琥希
重原 花凜
早乙女姫菜
過 尚希
宮永 柚乃
村上 由衣
石﨑 暖大
落合妃菜乃
藤野かえで
山本 菜緒
鈴木みのり
正木 紗奈

秀作
根本 真弘
五十嵐斗哉
小澤 琴美
田畑 華綾
原本 柚希
長谷川琴星
小川 萌香
山中 康生
佐々木香乃
岡﨑 星
大西千佳子
芳田 晏奈
宮永 楓乃
平山 佑奈
小林 亮太
盛 知里
首長 春樹
山本 希愛
綿本 音泉
米川あやの
関 留理華
小塙 陸斗
潮田 修佑
黒川 瑞希
山田あゆ美
日下部友菜
村田 美瑛
穂積 琥希
重原 花凜
早乙女姫菜
過 尚希
宮永 柚乃
村上 由衣
石﨑 暖大
落合妃菜乃
藤野かえで
山本 菜緒
鈴木みのり
正木 紗奈
小林 博香
稲村 優芽
早乙女晴姫
山田 朝陽
山本瑠璃子
伊藤 太一
桑原 廣雅
金子千音星
野口 凜華
大島 美咲
手塚 孔星
山田 優弥
小鹿 温菜
根本 悠香
小倉 巡
小早志美徳
荒木 天花
早乙女真唯
古関 璃奈
佐久間百萌
矢野 隆生
若菜利里香
山田 陸駆
間宮 一期
内山 彩音
内山 初音
小野塚優真
櫻井 遥香
嶋口 睦美
竹前菜々美
杉田 康輔
浅利 紅
落合瑠宇久
吉澤ひかり
高橋 莉夏
織田 智秋
中條 凛我
松丸 鼓
菊山 さら
山田 海里
栗栖 拓人
川井 綾太
和気 駿祐
小鹿 心菜
村田 莉瑛

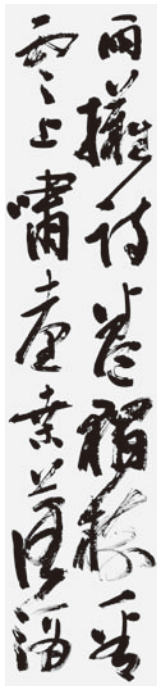
佳作
大澤 麗桜
江原穂乃佳
三宅 朱莉
折原紗弥乃
杉田 悠輔
小川 花姫
高坂菜奈子
関口 結菜
林 麗奈
長谷川翔月
白石 花蓮

'16 貞香会総合書展 選抜大作展

三浦看山

沖 素宮

川島栖園



深井汀苑

※当選抜大作展に展示した杉戸泰岳先生の作品は、P.4に掲載有り。

'16 貞香会総合書展 《ダイジェスト》

◎選抜大作展を併催

２０１６年度は、ＴＯＫＹＯ書２０１６展示作品および各書展において輝かしい賞を受賞された方々による作品を展示、選抜大作展を併催した。

〔出品者〕

杉戸　泰岳（ＴＯＫＹＯ書２０１６展　代表出品）
三浦　看山（第50回記念貞香書展　中村素堂記念賞）
沖　　素宮（第50回記念貞香書展　特別賞・同人推挙）
川島　栖園（第50回記念貞香書展　特別賞・同人推挙、第58回東方書展　特別賞・同人推挙、第67回毎日書道展　毎日賞）
深井　汀苑（第50回記念貞香書展　特別賞・同人推挙）

◎席上揮毫を開催

展示会場にて、１月24日㈰午前10時より杉戸泰岳先生、三浦看山先生、川島栖園先生による席上揮毫を開催。多数の観客の前で、それぞれ先生方が筆裁きを披露、最後に解説をされて、皆さんの前で想いを伝えられた。

２０１６年度、会友規定により左記の方が新会友に昇格しました。おめでとうございます。

◎会友昇格者

荒井　溪水　　上坂　木蘭
大島　京子　　及川　佩玉
北井　康子　　越川　淑泉
近藤　朗詠　　鈴木　柏琴
鈴木　英男　　松下　彩虹
山口和希子　　山中あつみ
世継　仁美　　渡辺　萌苑

第59回 東方書展

第59回東方書展審査について

髙橋 珠翠

今年も特別企画として各書道団体の代表の「俊抜展」が開催され、貞香会からは理事の後上青華先生が出品されました。ギャラリートークでは多くの方が集まり、各先生方のお話に聞き入っていました。

今回の審査員は中村素岳先生、第一部は中村香柯先生、佐藤光華先生、海野蒼秀先生と髙橋、第三部は大屋泰穹先生でした。(貞香会の公募数は第一部24点、第三部無し。)

ここでは私が担当しました第一部公募作品165点の審査についてご報告致します。

前回第58回展より鑑別、審査の方法が変わり、公募作品については各賞決定まで、審査員のみで行なわれました。最初に審査対象となる作品を選びます。審査員は正面に並べられる作品一点づつを○か×で判断します。その後、上位点数獲得作品を一堂に広げ、各審査員は全作品を隈無く見ながら持ち点を投票します。持ち点を多く集めた作品より各賞(推薦、特選、褒状)が決定します。

第一部の作品は、三行、四行の行書が多く隷書、楷書は僅かでした。書体がどうであれ一文字づつの丁寧な練習から一つの作品を作り上げている練度の高い、明るく、躍動感の有る力強い作品に票が集まりました。

貞香会は特選5点、褒状7点という好成績でした。入選、入賞の皆さん、おめでとうございます。

次回展に向けて、各自日々の稽古を大切にし、作品作りに創意工夫される事を希望します。

第59回 東方書展 入賞者

特別賞・同人推挙　上野　泰僊

同人推挙　倉石　芳園

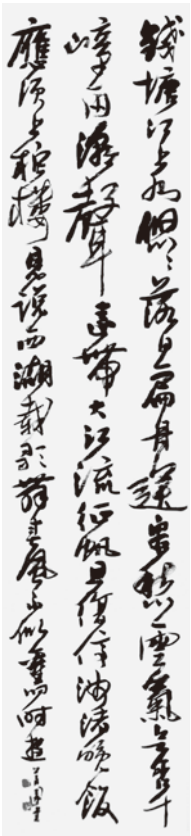
特　選　塚山　清峰　矢口　昌華　富田　青軒　伊藤　朱楊
　　今古賀文彦

褒　状　西館　汀舟　下川　翠雨　浦野　芽衣　冨田　希
　　津村　佳園　江原　覺堂　栗原　汀逕

第59回 東方書展（優秀作品）

特別賞・同人推挙　上野　泰僊

同人推挙　倉石　芳園



俊抜展

後上菁華先生

第59回 東方書展 《ダイジェスト》

◎「俊抜展」を併催

第59回東方書展は桜が満開のもと開催され、平成28年度の「俊抜展」では、貞香会より、理事の後上菁華先生が代表作家として出品されました。

4月2日㈯には、展示会場にて俊抜展出品者の作品解説が行われた。当日、後上先生はやむをえず出席できず、師匠である中村素岳先生が代読する形で、後上先生の制作に対する想いを、観覧者の前で伝えられた。

「今回書いた甲骨文字は、十年位前に小品で甲骨文字を書いたのがきっかけでとても楽しくなり、以来甲骨文字の作品に取り組むようになった。中国の字書や様々な甲骨文字作品を観たりして、型にはまらないおもしろさやその美しいバランスなどを学んでいる。今回苦労した点は、線の打ち込みの強さ、構成が思うようにいかなかった。」などと説明され、最後に使用した紙、筆、墨などの用具用材について解説されました。

最高会議員　中村素岳先生

企画委員　赤平泰処先生

運営委員　中村青藍先生

監　事　根本泰邱先生

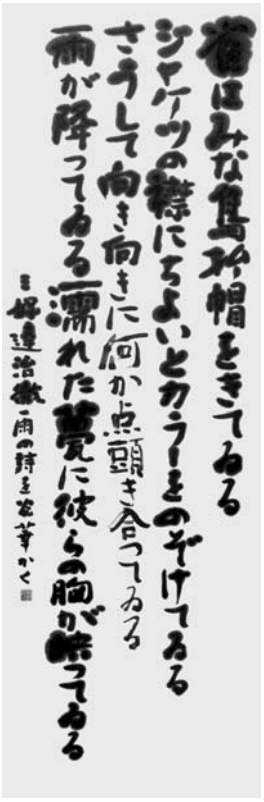
◎第59回東方書展 役員

〔最高会議員〕中村素岳
〔企画委員〕赤平泰処
〔運営委員〕中村青藍
〔監　　事〕根本泰邱

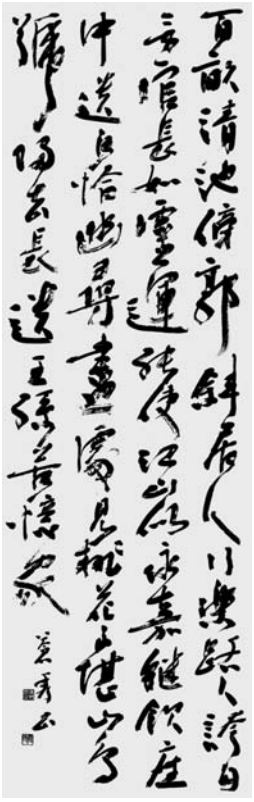
審査員　高橋珠翠先生

第58回 東方書展 《ダイジェスト》

審査員　中村香柯先生



審査員　佐藤光華先生



審査員　海野蒼秀先生

審査員
大屋泰穹先生

◎第59回東方書展　審査員

〔特別賞選考〕　中村　素岳
〔第1部審査員〕　海野　蒼秀　　佐藤　光華
　　髙橋　珠翠　　中村　香柯
〔第3部審査員〕　大屋　泰穹

◎昇格者

第59回東方書展受賞に伴い、東方書道院の規定におきまして、次回展より次の方が昇格になります。おめでとうございます。

〔同人昇格〕　上野　泰僊　　倉石　芳園

佐藤中処先生を悼む

参与　書間　欽堂

10月18日車中でメールを受けた。柿の木会の幹事の方からであった。「佐藤先生が10月8日お亡くなりになりました」とあった。高齢でもあったし、入院中と仄聞していたのだがショックであった。

思い返してみると中処先生とは随分長い間のお付き合いを頂いた。わたくしが最初にお目にかかったのは、大学3年の時で、中処先生は38歳、昭和36年の話である。それから今日まで56年の長きにわたってお付き合いを頂いた。

中村素堂先生の存命中は、先生の秘書役として、貞香会のことは何でも中処先生を通して門人に伝えられていた。先生亡きあとは古沢素雨先生が2代目会長になられた。この時すでに事務的な仕事のすべては中処先生が引き受けておられた。そして素雨先生が引退されると自動的に中処先生が3代目会長になることになった。しかし中処先生は会長という役職名をきらって「理事長のままでゆく」ということで理事長トップという体制が出来上がった。この古沢、佐藤体制で最も難題となったのは、素堂先生が遺言の如く云われた「貞香会は大正大学の若手に引き継ぐ」という言葉であった。なぜならその頃の大正大学のOB会は学生あがりの若手の集まりで、元気はあったがまだ海のものとも山のものとも分からない状態にあった。一方貞香会の幹部の方々は、キャリアの長い旧国鉄や運輸省等の人々の集まりで、大ベテランの集まりであった。貞香会の全権を大正大学の若手にどう移してゆくか、それをどう納得させるかということは古沢先生と佐藤先生の最も頭の痛い、面倒な仕事であった。一方それを受ける若手の側にとっても誠に荷の重い問題であった。若手の窓口となったわたくしは毎日のように中処先生に電話をかけ、電話をもらい、手紙のやりとりをした。ともかく峠を越えるまでは大変であった。この間中処先生は愚痴らしいことは何も言わず、「問題があればわたくしが責任をとって引くから」と言われて、決して強引に事を運ぶということはなかった。この中処先生の「忍」の一字があって、第二期の貞香会の基礎がきずかれたといってよい。

先生の青春時代、大いに羽を伸ばして遊びたいその時、或いは勉強をしたいその時、戦争のために貴重な時間を奪われてしまった。この口惜しさは決して取り返すことは出来ない。中処先生がある意味の世捨て人的考えを吐露されたのは、正に戦争のためであったと思う。「うちの社中はマアいいから」といつも他人に一歩譲るあの態度は、皆から愛され慕われたのも当然といえる。学問的で、律儀で、親切な人柄はそのまま先生の書作品に表れている。「書は人なり」である。

中処先生は中村先生以外にもう一人師と仰ぐ方がおられた。それは陽明学者であり、思想家の安岡正篤先生であった。中処先生のお話の中に何か一本筋の通った、ブレナイ姿勢があったのは、正に安岡先生の影響であったと思う。

私たちは本当に惜しい、御恩のある先生を失ったのだと痛感する。

佐藤中処先生のご冥福をお祈り申し上げます。

享年92歳。

合掌

第24回東方書展出品作品

※佐藤中処先生は、長年に渡り貞香会を代表して、東方書展の代表並びに最高会議員としてもご尽力いただきました。

第51回 貞香書展

第51回貞香書展審査所感

根本泰邱

第51回貞香書展の総出品点数は二九七点。内訳は、役員・同人から76点、審査対象となる準同人30点（内新昇格者6点）、鑑別会員42点（内新昇格者10点）、会友31点、公募第Ⅰ部52点、公募第Ⅱ部66点で、合計297点の出品がありました。昨年の第50回記念展を終え、大幅な出品点数減が心配されましたが、マイナス35点という結果を大幅な出品減ととらえるか、49回展からをみるとマイナス3点なので微減ととらえるか・・・。

第49回展から、公募の部門は四部制、複数部門への出品を可、年齢制限を引き下げ高校生の出品を可、と出品点数増を期して改革をしているが、残念ながら更なる一考が必要ということを認ぜざるを得ない。

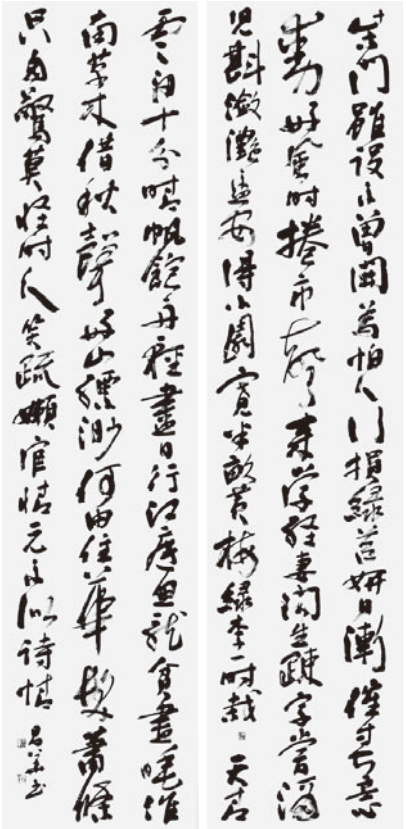
今回の審査会は、6月13日㈪、国立新美術館地下審査室において、午前10時15分より公募第Ⅰ部、第Ⅱ部に分かれて鑑別を開始。11時より審査を行ないました。午後からは特別賞・同人推挙、推薦の選考が行われ、先ず特別賞の1点は、本年度の特別審査員、朝聞書会理事長の林竹聲先生より、準同人26点の中から清水淡雲さんの作品を選考していただきました。その後、本会の選考委員の先生方と25点中から矢口昌華さんの作品を選考。鑑別会員32点から4点の推薦作品がめでたく選考されました。その後の合同審査会議において選考作品が紹介され、第Ⅰ部、第Ⅱ部の入賞作品が確定されました（入賞者名は巻末に掲載）。おめでとうございます。

選考された作品に共通していることは、十分な墨量があること。豊富な練習量により安定感が感じられること。行の流れがスムースであること。余白の白が美しいこと等が挙げられますが、何よりも作者の強い意志が感じられた作品が選考されておりました。「こういう作品を作りたい」という気持ちと「たくさん書き込む」ことです。

第51回貞香書展（優秀作品）

特別賞　同人推挙　清水淡雲

特別賞　同人推挙　矢口昌華



根本泰邱先生（本年度審査員）

第51回 貞香書展受賞者

特別賞・同人推挙　清水淡雲　矢口昌華

推　薦　津村佳園　佐藤泰石　髙島雪華　渡邉芳香

公募1部

■特　選　山中あつみ　森山真衣　世継仁美　浦野芽衣
栗原汀逕　森　佳鶴

■準特選　北村亭弘　北井康子　宮田奈摘　池ヶ谷千恵
今古賀文彦　大島京子　青木照美　今野沙穂
香取翠苑　西館汀舟　藤沼芳碧　野村佳鈴
池田翠雨

■秀　作　小堀竹栖　渡辺蘇心　川端正廣　中川秀雲
越川淑泉　岩舘紅楓　渡辺萌苑　大芦卿雲
佐藤史帆　松本芳琇　根布谷順子　五喜田幽石
五十嵐千佳　森川映花　鈴木葉香　髙森柯泉
津田雅代　関根熙雲　入山美幸　根本柏暢
今泉白水人　塩野洋子　杉山桃月　大海知磨
鈴木柏琴

公募2部

■特　選　成田素旭　藤原優子　栗山幸美　峯岸悦子
江藤啓子　今井文子

■準特選　今泉伊代子　吉田堂胤　小林如雪　田中峰堂
赤橋雅静　庄司美佳　沢田可祝　鈴木彩香
毛利佳峰　伊能江樹

■秀　作　松野澄水　若生瑞峰　大木秀佳　橋本和奏
田村永春　山本その子　田口和美　石毛香雲
雑賀誠芳　永井　雅　坂本友香　大﨑素風
広田瑣葉　室井大輔　邊見順子　榎本良子
池田万有子　小池紫翠　佐藤由紀　田村美佐子

◎昇格者

第51回貞香書展受賞に伴い、本会の規定において、次回展より次の方が昇格になります。おめでとうございます。

〔同人推挙〕
清水淡雲　矢口昌華

〔準同人昇格〕
佐藤泰石　髙島雪華　津村佳園　渡邉芳香

〔鑑別会員昇格〕
浦野芽衣　北井康子　北村亭弘　野村佳鈴
森　佳鶴　森山真衣　山井御代　山中あつみ
世継仁美　栗原汀逕

〔会友昇格〕
赤橋雅静　香取翠苑　川原幽香　鈴木葉香
成田美和子　楡木良裕　藤原優子　森川映花

第51回 貞香書展 《ダイジェスト》

第51回貞香書展が、去る6月22日から7月4日まで、東京六本木の国立新美術館で開かれた。出品は297点で、記念展の前回よりやゝ減少したものの、前々回の49回展とほぼ同数を維持した。又、理事13名によりハガキ大の小品展が会場奥の別室で開かれ、にぎわいを見せた。

6月26日(日)の午前10時半より館内講堂において、台東区立書道博物館主任研究員の鍋島稲子先生による「中村不折と書道博物館コレクション」と題する講演が開かれ、聴講生が多数つめかけた。同日午後1時より授賞式がとり行われ、受賞者の喜びの顔があふれた。今回は外部審査員として長年にわたり貞香会と親交のある朝聞書会理事長の林竹聲先生に特別賞選考委員をおつとめいただき、授与式にもご出席いただいた。

7月3日(日)午後1時より講堂において、中谷春径、根本泰邱、光谷素仙の3先生による席上揮毫会が催され、会場は熱気につつまれた。又、会期中2回にわたって赤平泰処会長による作品解説の会が開かれ、多数の方々が熱心に聞き入っていた。

授与式（右）林先生と清水淡雲さん
（左）赤平先生と矢口昌華さん

林竹聲先生による審査風景

赤平泰処会長による作品解説

鍋島稲子先生による講演

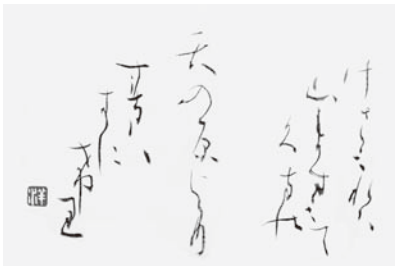
席上揮毫の光谷素仙先生

席上揮毫の根本泰邱先生

席上揮毫の中谷春径先生

第51回 貞香書展

併催 役員小品展



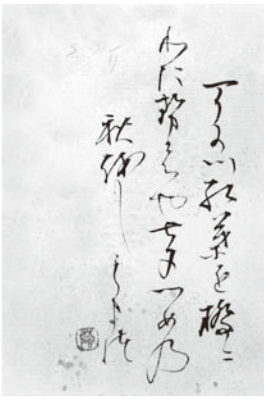
末永江春先生

奥山泰嶺先生

山根紅樹先生

平林大舒先生

赤平泰処先生



二木秀蔭先生

鈴木蓮徑先生

光谷素仙先生

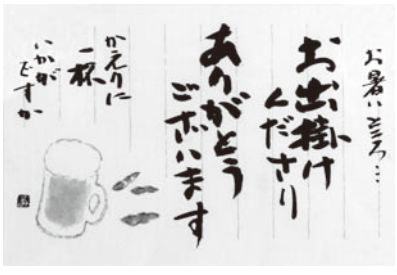
加茂泰玄先生

中村青藍先生

後上菁華先生

根本泰邱先生

今井泰篁先生



高橋珠翠先生

第68回　毎日書道展

第68回毎日書道展審査所感

鈴木　蓮徑

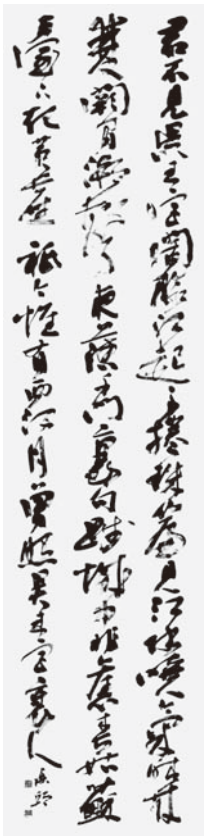
第68回毎日書道展は、総数２９６１１点という作品が出品された。減少する部門があるにもかかわらず、漢字部は出品点数が増え、全体では昨年展より51点増であった。五月下旬に公募の入落審査があり、六月下旬には、公募・会友の賞決定の審査が行われた。毎年厳しい審査で、今年は入落の比率が50％・入賞比率が42％であった。

私は初めての審査ということで、緊張の中、貞香会の皆さんの作品が一点でも多く入選・入賞することを願いながら審査に臨んだ。１ラウンド20分で200から220点の作品を審査していくため、一瞬で評価されてしまう状況だった。しかしその中で、審査員25人全員の手が挙がる満点の作品もあった。高得点の作品は、行草の三行書きで、行が流れていく書きぶりや、墨量がのっている安定した作品であった。また、練度の高く構成がよくまとまっていた隷書作品も点数が入りやすい傾向にあった。

貞香会の作品は、濃い墨でまた強い線で書かれていて、なおかつ前述の書きぶりの作品に点数が多く入っていたようだ。また、貞香会の隷書作品も評価を得ていた。さらに自分の力の向上のためにも他流試合をしていってほしいと感じた。以上のような事を念頭において、来年の作品制作に役立てていただき、多くの出品を期待する。

第68回　毎日書道展（優秀作品）

会員賞　根本泰邱



毎日賞　林　泰堂

本年度当番審査員（漢字部Ⅰ類審査員）　鈴木蓮徑先生

第68回 毎日書道展 当会役員・入賞・入選者

〔会　員　賞〕　根本 泰邱

〔漢字部入賞者〕

☆毎日賞　林　泰堂

☆秀作賞　飯野 柳秈　海野 蒼秀　三浦 看山

☆佳作賞　沖　素宮　川島 栖園　近藤 朗詠　室井 汀翠

☆U23奨励賞　浦野 芽衣

〔会友並びに公募入選者〕（☆印は入賞者）

＊漢字部・会友　秋田谷岱空 ☆飯野 柳秈　石原 翠山　石山 心茜　岩崎 芳穂　上原 東琴

上野 泰僊 ☆海野 蒼秀　海老原綵翎　大塚 澄心　☆沖　素宮　小澤 茜逕　恩田 澄光

加地 香泉　亀和田郁芳 ☆川島 栖園　川嶋 芳岳　倉石 芳園　小竹 布美　酒井 芳華

佐藤 泰石　清水 天悠　下川 翠雨　鈴木 芳草　鈴木 玲香　髙木 素近　立花 香琳

富田 青軒　外山 翠光　永井 静軒　中田 翠苑　浜瀬 碧水　☆林　泰堂　林　澄翠

樋口 泰仙　二木 秀蔭　細田 香瑤　☆三浦 看山　光田 秀穂　☆室井 汀翠　矢口 昌華

渡辺 蒼秀

＊漢字部Ⅰ類入選者

青木 照美　市川 賀雪　池田 紀子　伊藤 朱楊　稲田 祥英

今古賀文彦　内海久美子　江原 覺堂　大芦 卿雲　大石 碧堂　大島 京子　小野　優

北井 康子　北村 亭弘　☆近藤 朗詠　篠原 翠峰　杉山 桃月　鈴木 秀華　関口 恵子

関根 熙雲　高橋久美子　高橋 柳瑛　武内 陽華　塚山 清峰　津村 佳園　冨田　希

長尾 貫清　彦田 翠香　平澤 大廣　藤井 泉桜　宮本 汀扇　森川 映花　森山 真衣

柳原 桃心　山崎 香彩　山中あつみ　横張 瑞泉　吉田 和蓉　世継 仁美　渡辺 蘇心

渡辺 桃舟　和田 芳華

＊漢字部Ⅱ類会友公募入選者　加地 香泉

＊漢字部Ⅱ類入選者　岩渕 響泉　橋本 竹泉　保坂 登志

＊U23漢字部入選者　阿部　匠　入山 美幸　☆浦野 芽衣　小山 綾香　河合 詩歩

今野 沙穂　宮田 奈摘

☆印は入賞者

◎昇格者

第68回毎日書道展受賞および特別選考会により、毎日書道会の規定において、次の方が昇格されました。おめでとうございます。

〔審査会員昇格〕

根本泰邱　中村香柯

〔会員昇格〕

室井汀翠　海野蒼秀

三浦看山

〔会友昇格〕

江原覺堂　渡辺蘇心

和田芳華

※会員昇格された先生方は、アートサロン毎日にて開催される「2017年毎日書道展新会員作家展」において、第2期［平成29年3月13日㈪から18日㈯］に海野蒼秀先生が、第4期［平成29年3月27日㈪から4月1日㈯］に室井汀翠先生が、第6期［平成29年4月10日㈪から4月15日㈯］に三浦看山先生が、出品します。

第68回 毎日書道展 《ダイジェスト》

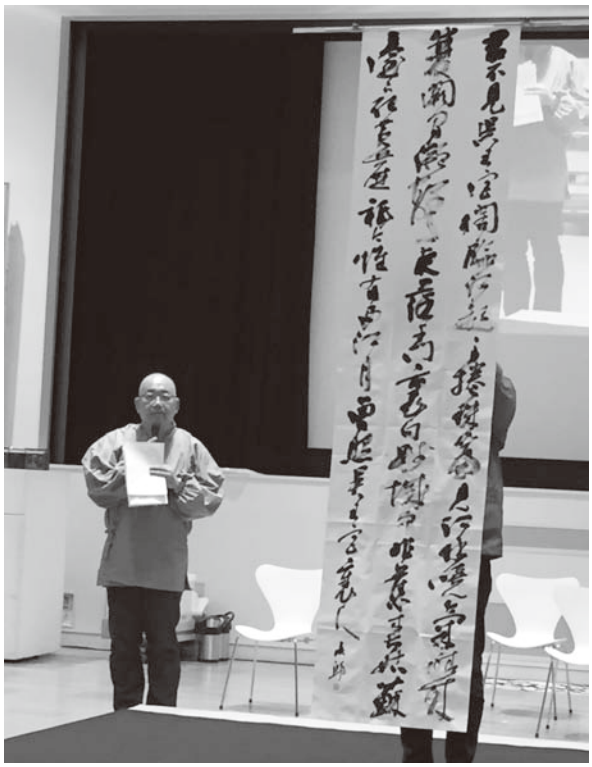
◎根本泰邱さん会員賞受賞祝賀会開催

平成28年10月14日㈮、根本泰邱さんの第68回毎日書道展会員賞受賞祝賀会を、ホテルモントレ銀座にて開催した。

ご来賓の方々と会員あわせて98名が出席、にぎやかに祝賀会が行われた。

毎日書道会専務理事　糸賀靖夫様、書評論家麻生泰久様、真言宗智山派安房第三教区長　渡辺宥真様よりご祝辞を賜り、毎日新聞社事業本部長の三岡昭博様の乾杯で祝宴がスタート。師匠でもある赤平泰処会長より激励の言葉があり、根本さんより「この度の受賞は身が引き締まる想い、これからも毎日書道会、そして貞香会、西蓮書道会に貢献していきたい」とお礼の挨拶を述べられた。

祝宴では、ヴィブラフォン演奏や、映像による根本さんのプロフィール紹介、毎日書道展の会期中に根本さんが席上揮毫した様子をビデオ再生するなどして大いに盛り上がった。



◎中村香柯さん審査会員昇格

■プロフィール
貞香会理事・同人
東方書道院同人
埼玉県書道人連盟評議員
埼玉県東書道人連盟会員
墨光会同人

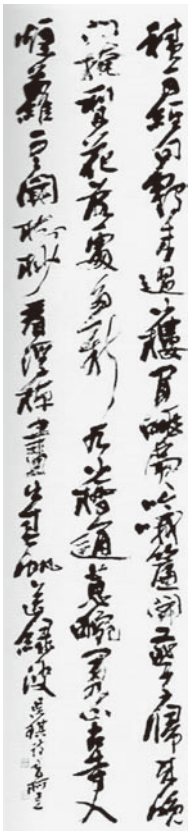
この度、毎日書道展の昇格制度において審査会員にご推挙いただき誠にありがとうございます。

これも審査にあたられた諸先生のお力添えをいただきましたこと、及び貞香会、墨光会の皆様の支え、そして師　中村素岳先生のご指導のおかげと感謝いたしております。

今回2×8尺の行草と隷書作品二点を出品いたしました。運筆の変化や強くきびしい線をと心がけましたが、力不足で苦心したところです。

毎日書道会より報告をいただいて以来、身に余る思いと賞の重みを痛切に感じております。

これからもこれを新たな出発点として、一歩一歩努力を重ねてまいりたいと思います。



第68回毎日書道展出品作品

第68回 毎日書道展 《ダイジェスト》

◎第68回毎日書道展作品下見会の開催

平成28年4月11日(月)午後1時半より、貞香会主催による第68回毎日書道展の作品下見会を、文京区男女平等センターの研修室にて開催した。

当日、提出された作品は総数60点。下見会講師に中村素岳顧問、赤平泰処会長、中村青藍理事長、鈴木蓮徑理事（今年度、毎日書道展漢字部Ⅰ類審査員）があたられ、司会は根本泰邱事務局長の進行で進められた。

ホールの壁全面に作品が張られ、一点一点、講師の先生方が丁寧に講評を行なった。墨量の変化、筆の抑揚、線の引き方、字形、行間、構成などのバランスや紙のサイズなど、細かく指摘をされた。当日、会場に参加された方は、自身作品の講評の際メモを取るなどして、熱心に講師の先生方のアドバイスに耳を傾けていた。

批評会の最後に、講師の先生方より、締切日までによく書き込んで練度の高い作品を、そしてまた誤字のない作品を制作してくださいとの激励のお言葉をいただき、3時間に及んだ下見会は無事に終了。

今回、貞香会主催の毎日書道展の下見会は久しぶりの開催であったが、作品未提出の方、また下見会に参加された方が少なかったのが大変残念であった。

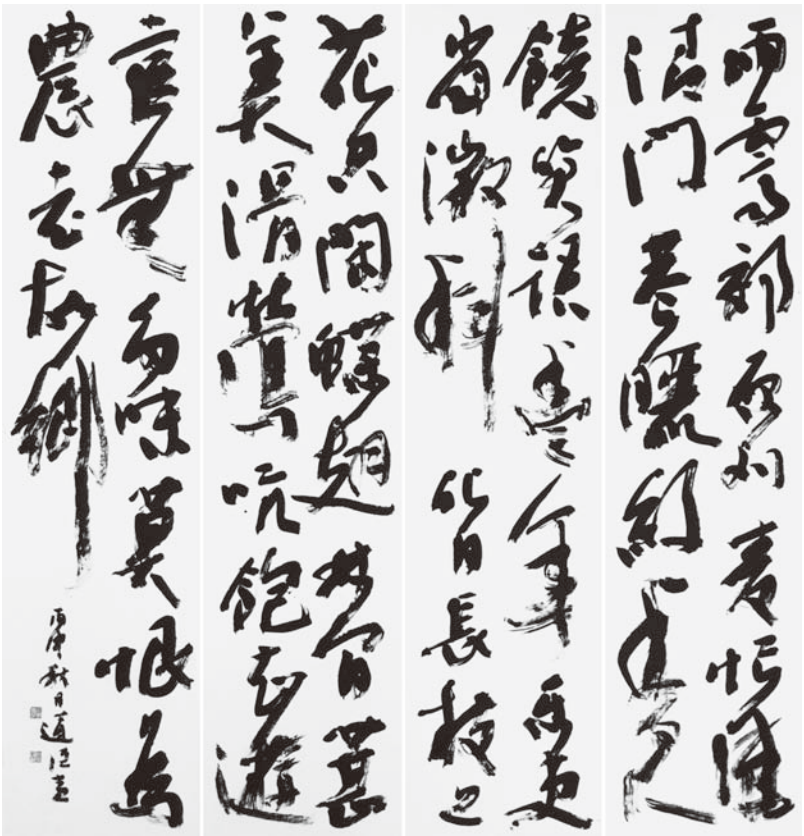
今後は、毎年積極的に下見会を実施し、貞香会全体の作品向上を図りたいと、下見終了後の理事会で話し合われた。次回、多くの方々が参加されますよう期待いたします。

（理事一同）

◎毎日書道展 審査会員―栃木の会書展の開催

栃木県の毎日書道展審査会員による栃木展は、平成28年度は第12回展を栃木県総合文化センターで開催。貞香会より、参与の松本宜響先生と理事の鈴木蓮徑先生が出品された。総勢15名の出品者の作品群は、漢字・詩文書・大字書・仮名・刻字・篆刻とバラエティにとび、一人5メートルの展示幅に2点ないし3点の見応えのある作品が展示された。

松本宜響先生出品作品



鈴木蓮徑先生出品作品

洗碑会

中村素堂先生のお誕生日である五月二日、小石川傳通院において洗碑会が催された。

ご親族、弟子、孫弟子、そして先生に所縁のある方二十名近くが記念碑前に集まり、午後四時三十分、開会となった。

式次第に沿って代表挨拶、ご親族紹介と続き、代表者によってプレートが浄められた。その後、菩薩願行文、般若心経を唱え、滞りなく閉会を迎えた。最後に記念碑の前で集合写真を撮り、散会となった。

最近は、洗碑会に集う顔触れもあまり変わらなくなり、参加人数もひと頃に比べると、緩やかな減少傾向にある。時の流れとはいえ、年に一度はこの碑の前に集い、それぞれに思いを巡らせる日があってもいいのではないだろうか。

節目の記念展があった昨年。再び、新たな一歩を踏み出す今年。貞香書展の頃には、一年の折り返しを過ぎ、残る後半を見据えた動きもより具体的になってくる。

逸る気持ちを察してか、この日は落ち着きを諭すような空模様だった。

（秋田谷岱空記）

錬成会

平成28年2月27日（土）、梅の花があちこちで見られ、春の到来を感じさせるような季候の中、南浦和・鵞毛堂の錬成会場において、東方書展、毎日書道展、貞香書展に向けた錬成会を行なった。

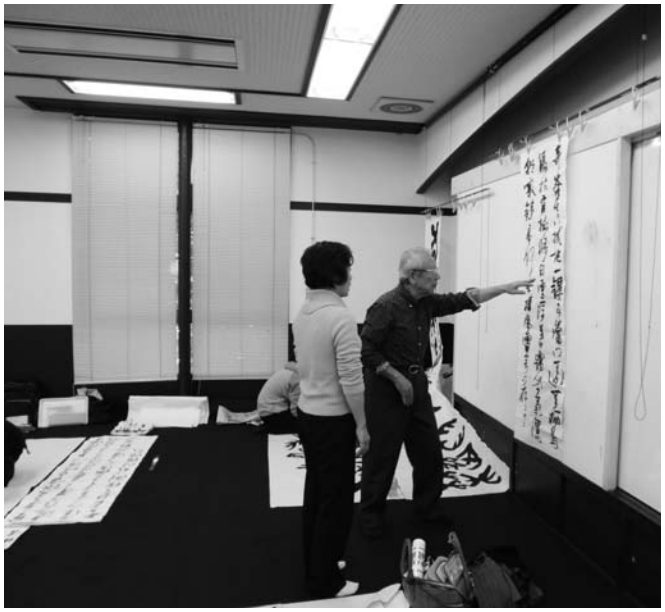
講師は中村素岳先生、赤平泰処先生が担当され、30名が参加、百畳敷きの会場は「さあ、書くぞ！」という熱気に包まれていた。更に作品のみの参加も加わり、会場は多数の作品群で埋め尽くされた。

講師の先生方がそれぞれ到着すると、早々に手本書きや批評をお願いする列ができ、講師の先生方の筆使いを間近で見て、また作品構成などの指導を直に受け、ひとりひとりに丁寧な指導をいただいた。これらは錬成会に参加しないと学べない光景だ。

錬成会終了後は、錬成会場の隣にある文蔵神明社という神社に、中村素堂先生が揮毫した碑があるので、最後まで錬成会に参加した会員で見学した。その碑は、昭和十三年二月二十二日に素堂先生が書丹、力強い気骨な楷書体で「伊勢参拝記念」と書いてあった。その碑は、まるで錬成会中、道場隣りで素堂先生が叱咤激励していたかのようにも感じられた。

次回も、多くの方々が参加されますよう期待します。

（理事一同）



〈平成二十八年度事業報告〉

■主な展覧会

○'16 貞香会総合書展
会期：平成28年1月20日（水）～24日（日）
会場：上野・東京都美術館
授賞式：1月23日（土）教育部11時～ 一般部13時～ 美術館内講堂
懇親会：1月23日（土）17時～ 美術館内 アイボリー
席上揮毫：1月24日（日）10時～11時 展覧会場内
作品解説：1月24日（日）13時～ 展覧会場内

○第59回東方書展
会期：平成28年4月1日（金）～6日（水）
会場：上野・東京都美術館

○第51回貞香書展
会期：平成28年6月22日（水）～7月4日（月）
会場：六本木・国立新美術館3A
講演会：6月26日（日）10時30分～12時 美術館内講堂
鍋島稲子先生（台東区立書道博物館主任研究員）
演題「中村不折と書道博物館コレクション―中国書跡を中心に―」
授賞式：6月26日（日）13時～14時 美術館内講堂
作品解説：6月26日（日）14時～15時 展覧会場内
懇親会：6月26日（日）17時開宴 サンミ高松 銀座7丁目店
席上揮毫：7月3日（日）13時～14時30分 美術館内講堂

○第68回毎日書道展 東京展
会場：国立新美術館
会期：平成28年7月6日（水）～7月31日（日）
会場：東京都美術館
会期：平成28年7月16日（土）～7月23日（土）

■洗碑会
日時：平成28年5月2日（月）午後4時～ 受付
午後4時半～ 洗碑会
会場：文京区小石川・伝通院

■錬成会
日程：平成28年2月27日（土）午前9時～午後5時
会場：鷲毛堂錬成会場・さいたま市南区文蔵4-27-3
内容：東方書展・毎日書道展・貞香書展に向けて
作品制作および合評会

■貞香会後援の展覧会

○素心会書展
会期：平成28年2月22日（月）～27日（土）
会場：文藝春秋画廊

○第2回大野宜白・蘇士澍 書書展
会期：平成28年9月14日（水）～16日（金）
会場：日中友好会館美術館

○赤平泰処書展―書の美を求めて―
会期：平成28年9月27日（火）～10月2日（日）
会場：東京銀座画廊7階

○第47回墨光書展
会期：平成28年10月6日（木）～10日（月・祝）
会場：春日部市民文化会館

○第10回和墨書道展
会期：平成28年10月13日（木）～16日（日）
会場：香取市佐原中央公民館

○第30回記念西蓮会書展
会期：平成28年10月14日（金）～18日（火）
会場：銀座・かねまつホール

○第1回知音書展
会期：平成28年11月24日（木）～27日（日）
会場：吉田町中央公民館

〈平成二十九年度行事予定〉

主な展覧会

○'17 貞香会総合書展

会期：平成29年1月19日（木）～24日（火）
会場：上野・東京都美術館
席上揮毫：1月21日（土）10時～11時　展覧会場内
作品解説：1月21日（土）13時～　展覧会場内
授賞式：1月22日（日）教育部11時～　一般部13時～　展示会場内
懇親会：1月22日（日）17時～　美術館内　アイボリー

○第60回記念東方書展

※平成29年の開催はありません。
会期：平成30年3月25日（日）～3月31日（土）
会場：上野・東京都美術館

○第52回貞香書展

会期：平成29年6月28日（水）～7月10日（月）
会場：六本木・国立新美術館3A
講演会
授賞式
懇親会　※後日お知らせします。
席上揮毫
作品解説

○第69回毎日書道展　東京展

会場：国立新美術館
会期：平成29年7月12日（水）～8月6日（日）
会場：東京都美術館
会期：平成29年7月16日（日）～7月23日（日）

洗硯会

日時：平成29年5月2日（火）　午後4時～　受付
　　午後4時半～　洗硯会
会場：文京区小石川・伝通院

錬成会

○錬成会

日程：平成29年2月26日（日）　9時～17時
会場：鷺毛堂錬成会場・さいたま市南区文蔵4・27・3
内容：毎日書道展・貞香書展に向けての作品制作および合評会

○錬成合宿

日程：平成29年4月8日（土）～9日（日）9時～17時
会場：BumB東京スポーツ文化館・江東区夢の島2・1・3
内容：毎日書道展・貞香書展に向けての作品制作および下見会

貞香会後援の展覧会

○第31回西蓮会書展

会期：平成29年10月13日（金）～17日（火）
会場：銀座・かねまつホール

○第48回墨光書展

会期：平成29年10月11日（水）～15日（日）
会場：春日部市民文化会館

○第11回和墨書道展

会期：平成29年10月　予定
会場：香取市佐原中央公民館

※この他、貞香会会員が活躍する展覧会の情報は、貞香会ホームページのインフォメーションにて掲載しています。詳しくは、そちらをご覧ください。

〈事務局だより〉

◇訃　報

名誉同人　佐藤中処先生が、平成28年10月8日に逝去されました。
（12ページに特別掲載有）
元理事　大木東崧先生が、平成28年8月16日に逝去されました。
謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

◇年会費について

◎平成29年度の年会費は、5月31日㈬までにご納入をお願いします。
◎平成28年度以前の年会費が未納の方は、お早めにお振込みをお願いします。

◇東方書展について

第60回東方書展は、平成29年の開催はありません。
平成30年3月25日㈰～3月31日㈯開催予定
なお、後日送られてくる出品規定でご確認ください。

◇錬成合宿について

一泊二日の錬成合宿を行います。詳しくは、24ページの平成二十九年度行事予定をご覧ください。会員皆さまの積極的なご参加をお待ちしています。

◇第52回貞香書展について

◎高校生出品募集
年齢満15歳（高校生）以上の方なら誰でも、第1部、第2部どちらかに出品することができます。出品料は、第1部は5千円、第2部は3千円です。（2点目より、出品料の減額制度有）奮ってご出品ください。
◎第2部、小作品の出品可能
第2部に出品にされる方、半切サイズ、3尺×3尺×サイズの他、半切1／2、半切1／3サイズ、半紙サイズ等での出品も可能です。詳しくは、第52回貞香書展出品規定をご覧ください。なお、ご不明な点がありましたら、貞香会事務所までお尋ねください。
◎第52回貞香書展の作品締切について
平成29年度は、5月19日（金）までに各表具店に作品を搬入してください。締切厳守でお願いします。

◇住所変更について

住所・連絡先など変更がある方は、貞香会事務所までＦＡＸまたはハガキなどの書面にてお知らせください。

◇会員の方の関係書道展について

会員の皆さんが活躍する書道展や催しものなどの情報を、貞香会事務所までお寄せください。展覧会の案内ハガキなど詳細をご郵送またはメールにて添付いただければ、貞香会ホームページのインフォメーションに掲載いたします。

◇ご意見・ご要望など

貞香会に関連する展覧会や行事などで、会員の皆さまよりご意見ご要望などありましたら、貞香会事務所まで書面にてお寄せください。

❖表紙・中村素堂先生作品より

【編集後記】

❖会報も皆様のお陰で発行できました。ご協力有難うございました。

平成二十八年は、初めて毎日書道展の審査を担当し、色々と勉強させていただきました。最近書道ができる喜びを感じています。家族に感謝しながら、これからも頑張ります。

〈蓮徑〉

❖平成二十八年度は記念展を終え、リスタートして第五十一回貞香書展を開催、新たな気持ちで出品した。講演会では、台東区立書道博物館の鍋島稲子先生による中村不折コレクションについてお話をしていただいた。情報入手が容易でなかった時代、先人達が遺してくれた貴重な資料に感謝。有難くこれからも学びたいと思います。

〈彩心〉

平成二十八年度（二〇一六年）

会報（第六号）

発行日　平成二十九年三月十三日(月)

編集・発行　**貞香会**
東京都江東区新大橋一―五―四―二一一
根本方
電話〇三（六二八四）〇四六六

印刷・製本　富寿印刷
東京都文京区大塚三―二六―九
電話〇三（三九四四）一一四一